

平成 22 年度 島根県事業石見銀山関連講座 1

「^{く き}銀山遺跡『^{おおばやし}久喜・大林』を探る」を開催しました

島根県西部には、世界遺産石見銀山遺跡（大田市）や久喜・大林銀山（邑南町）など各地に銀山跡があります。戦国時代は銀山をめぐるに尼子氏や毛利氏などによる争奪戦が繰り広げられ、江戸時代には石見地域各地の鉱山とともに幕府直轄領として開発が進められました。これらの銀山は地域の歴史や文化に大きな影響を与えています。

講座は平成 22 年 6 月 6 日（日）13:30 から邑南町出羽公民館において、島根県教育委員会主催、邑南町教育委員会と邑南町公民館連絡協議会の共催で行い、邑南町ふるさと講座と合同で企画しました。

島根県教育庁文化財課世界遺産室の守岡正司氏が「遺跡としての石見銀山遺跡」と題し、世界遺産の説明、石見銀山遺跡の特徴を紹介しつつ、石見銀山遺跡の調査を参考に今後の久喜・大林銀山の調査を行ってはどうかと提案しました。

次に、邑南町文化財保護審議会副会長の吉川正氏による「久喜・大林銀山の歴史」の報告がありました。地元で長年調査研究してこられた成果を報告いただきました(写真左)。石見銀山遺跡と久喜・大林銀山の広さはほぼ同じ大きさであること、戦国時代にも活発な生産活動があったと考えられること、さらに、島根県西部の石見地域には益田市、津和野町、大田市、邑智郡など各地に鉱山があり、どれもが重要な鉱山である点を強調されました。

最後は石見銀山遺跡客員研究員である中村唯史氏（島根県立三瓶自然館）による「石見のくき銀山」の講座でした。

久喜・大林銀山の銀がどのようにでき、この場所に集まり、鉱山として開発が行われたかをわかりやすく説明していただきました。主な鉱物である方鉛鉱に銀が含まれ、戦国時代には採掘されていた可能性が高いと指摘されました。また、1590 年代に製作された地図の写しと推定されている宮城県図書館所蔵の「石見国図」に「くき／銀山」と記載の紹介がありました。「くき」に接する安芸国（広島県）側に建物が配置されている点が、毛利氏との関係など久喜を考える上で何か重要なヒントになるのではないかと、との考察も紹介されました。

